

畑じいちゃんへ

金ヶ瀬小学校 三年 佐藤 隆洋

畑じいちゃん、去年もおいしいお米がとれたよ。ぼくもちゃんと手伝ったよ。

ぼくの家には、畑じいちゃんとおぼくの写真がある。写真の中の畑じいちゃんはお顔でぼくと畑の野さいに水かけをしている。ぼくの大切な思い出の写真だ。

畑じいちゃんはいつもやさしくて、とても物知りだった。米のことや畑の野さいの育

て方を、いつも教えてくれた。丸

森の、広い田んぼや畑を、ずっと畑じいちゃんはお守ってくれていた。畑じいちゃんはお

くの自まんのひいおじいちゃんだった。そんな畑じいちゃんが、四年前にひょう

気になっちゃってしまった。田んぼや畑で、毎日元気に

にはたらいっていた畑じいちゃんが、ひょういんのベッドにお

ていた。畑じいちゃんも、田んぼや畑のことばかりおぼ

おぼえている。

畑じいちゃんか、四年前のクリスマスの日  
に亡くなってしまう。それから、丸森の田んぼや  
畑もさびしそろに見えた。ぼくもとてもかな  
しかった。ぼくは、畑じいちゃんの写真の前  
に、しゅうかくしたいなほをそっとおいた。

畑じいちゃんが亡くなった後、次はぼく  
が田んぼや畑を守る番だ」と思った。畑じい  
ちゃんがずつと守ってきた田んぼや畑を、ぼ  
くたちがちゃんと守ってあげないと。学校が

なの休みの日には、丸森おじいちゃんとお父  
さんと、ぼくと弟は、できるだけ丸森の田ん  
ぼや畑のことをかんばっている。田んぼもい  
ねがりも、家そくみんなでかんばっている。

畑じいちゃん、今年もおいしいお米がとれ  
るように、かんばるよ。今年もおいしいお米  
を作って、畑じいちゃんにあげるからまって  
ね。ぼくは、畑じいちゃんの写真の前にか  
ざつてあるいなほを見ながら、いつもそん思  
うんだ。